

産業廃棄物処分量（DX取組）

県内取組事例

事業者：九州北清株式会社（所在地：小林市）
資本金：5,000万円 業種：産業廃棄物処分量 従業員数：80名

事業名：データ収集基盤構築事業

Excel VBA・マクロ



データドリブンな経営と戦略的な事業展開への基盤構築

【概要】

普段の業務を行っているだけで自然とデータが収集される効率的な仕組みを作り、分析を行うことが可能な環境を構築し、データドリブンな経営を行うために不可欠なデータの整理や課題の把握を行うデータ収集基盤を構築する。

【主な取組】

- ・データ整理および把握
現状業務と取り扱われているデータについての情報整理を行い、データ体系図を作成する。
- ・データ収集を行う基盤構築
各プロセスから見えた課題に対して、実装と効果が見込める業務の見直しを行う。
- ・導入ツールの定着を図る
ツール（VBA）での改善を行ううえで、扱う職員向けに操作マニュアルを作成し、ITリテラシー向上とツール利用の定着を図る。
- ・分析内容の検討
将来的にデータを活用した取り組みが実現できるよう、検討案を作成する。

【取組を行う背景】

産業廃棄物業界の動向として、資源の効率的、循環的活用による廃棄物ゼロを目指す「サーキュラーエコノミー」へと変化が進んでおり、当社としても変化を求められております。しかしながら、当社の課題として、適切な人員数と作業分配で稼働ができているのか判断ができない状態であるため、組織の変革に踏み出せないのが現状であります。

そこで、まずは社内のデータを整理、収集し、ヒト、モノ、カネを「見える化」させ、ムリ・ムダをなくし、更にそれらのデータを活用しデータドリブンな経営にシフトさせていきたいと考えております。

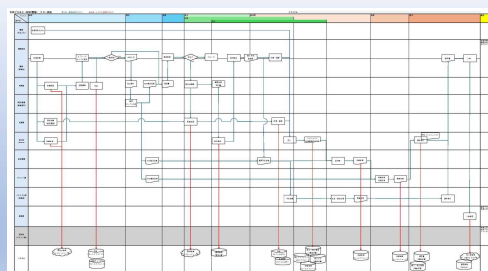
【効果（成果）】

- ・効果①手で行っていた集計作業、情報加工等がなくなった。
- ・効果②作成したVBAを用いることで、属人化していた報告書作成業務が標準的なものになった。
- ・効果③データの整理や課題の把握を行うために、データ収集基盤が構築でき、データドリブンな経営を行う為の礎ができた。

【本事業終了後の展開・展望（今後3ヶ年程度の後年度負担等）】

- ①構築したデータ収集基盤に集まったデータを基に、BIツールを構築見える化を行う。
- ②見える化された内容を基に経営を行い、事業見直しやBIツールの評価、再構築を行う。
- ③再構築したBIツールを基にデータドリブンな経営を実現する。

【データ体系図】



【報告書作成業務】

